



萬葉和歌集

卷中

特別  
~4  
7465  
10





萬葉集卷第十

春雜歌

雜歌七首

詠霞三首

詠花二十首

詠雨一首

詠煙一首

歎舊二首

詠鳥二十四首

詠柳八首

詠月三首

詠川一首

野遊四首

懽逢一首

旋頭歌二首

譬喻歌一首

春相聞

相聞七首

寄鳥二首

寄花九首

寄霜一首

寄霞六首

寄雨四首

寄草三首

寄松一首

寄雲一首

贈蘊一首

悲別一首

問答十一首

夏雜歌

詠鳥二十七首

詠蟬一首

詠榛一首

詠花十首

問答二首

譬喻一首

夏相聞

寄鳥三首

寄蟬一首

寄草四首

寄花七首

寄露一首

寄目一首

秋雜歌

七夕九十八首

詠花三十四首

詠鴈三首

遊羣十首

詠鹿鳴十六首

詠蟬一首

詠蟋蟀三首

詠蝦五首

詠鳥二首

詠露九首

詠山一首

詠黃葉四十一首

詠水田三首

詠河一首

詠月七首

詠風三首

詠芳一首

詠雨四首

詠霜一首

秋相聞

相聞五首

寄水田八首

寄露八首

寄風二首

寄雨二首

寄蟋蟀一首

寄蝦一首

寄鴈一首

寄鹿二首

寄鶴一首

寄草一首

寄花二十三首

寄山一首

寄黃葉三首

寄月三首

寄夜三首

寄衣一首

問答四首

譬喻歌一首

旋頭歌二首

冬雜歌

雜歌四首

詠雪九首

詠花五首

詠露一首

詠黃葉一首

詠月一首

冬相聞

相聞二首

寄露一首

寄霜一首

寄雪十二首

寄花一首

寄夜一首

春雜歌

夕方之天芳山此夕霞霏霰春立下

卷向之檜原丹立流春霞鬱之思者名積米八

方

古人之殖兼枚枝霞霏霰春者來良之

子等我手乎卷向山丹春去者木葉凌而霞霏

霰

玉蜻夕去來者佐豆人之弓月我高荷霞霏霰

聖武天皇大和地  
 天武天皇冬四  
 己年子朝婦  
 朝妻大和國  
 新羅姓  
 録云大和國  
 津前阪上之地  
 紀伊國神戶  
 二登國望  
 山ノ其ノ  
 夜の朝  
 朝妻大和國  
 紀伊國神戶  
 大和國向  
 香山直水向  
 のた近はの朝妻  
 三あり

今朝去而明日者來平等云子鹿丹且妻山丹

**霞霏霏**

聖武朝蓋聞之誤

子等名册開之宜朝妻之片山木之爾霞多奈

引

右柿本朝臣人磨歌集出

詠鳥

打霏春立奴良志吾門之柳乃字禮爾驚鳴都  
 梅花開有崗邊爾家居者之毛不有驚之音

霞少流故云流

春霞流共爾青柳之枝啄持而驚鳴毛

吾瀬子乎莫越山能喚子鳥君喚變瀬夜之不

深刀爾

朝并代爾來鳴杲鳥汝谷文君丹戀八時不終

鳴

冬隱春去來之足比木乃山二文野二文驚鳴

裳

紫之根延横野之春野庭君乎懸管驚名雲

聖武朝根不横  
 延並比群仰而云

河内 神谷河内國淡川郡横野神社

之悲而之誤  
契云之下脱天  
或色字

ハルサレハ ツミヲモトムトウクヒスノ コスヲツタヒナキツモトナ  
春之去者妻乎求等鷺之木末乎傳鳴乍本名  
カスカナルハ カロノヤニユサホノウチヘナキユクナルハタレ  
春日有羽買之山從猿帆之内敵鳴往成者孰  
ヨフコトリ 大和 佐保

喚子鳥  
コタヘ又ニ十ヨヒトヨミソヨフコトリサホノヤマヘヲノホリクタリ  
不答爾勿喚動曾喚子鳥佐保乃山邊乎上下

二

アツサユミハルヤマチカクイ一井ニテツキテキクラムウクヒスノコエ  
梓弓春山近家居之續而聞良牟鷺之音

ウチナヒキハルサリクレハシノメニヲハウチフレテウクヒスナク  
打靡春去來者小竹之米丹尾羽打觸而鷺鳴

毛

アサキリニニ又レテヨフコトリミフチノヤマユナキ  
朝霧爾之怒怒爾所沾而喚子鳥三船山從喧

渡所見

ウチナヒキハルサリクレハシカスガニアマクモキリアヒユキハフリツ  
打靡春去來者然為鱈天雲霧相雪者零管

ウメノハナフリツフユキツツミモテキミニミセムトトレハキツ  
梅花零覆雪乎畏持君爾令見跡取者消管

ウメノハナサキチリスキヌシカスカニシラユキニハニフリカサツ  
梅花咲落過奴然為鱈白雪庭爾零重管

イマサラニユキフラメヤモカケロフノモユルハルヒトナリニシモノ  
今更雪零目八方蜻火之燎留春部常成西物

乎

カセミヅリユキハフリツシカスカニカスミタナヒキハルサリニケリ  
風交雪者零乍然為鱈霞田菜引春去爾來

以下十首詠雪歌  
蓋脱雪題歌

以上十首詠雪歌  
蓋脱雪題歌



山際爾鸞喧而打靡春跡雖念雪落布沼  
峯上爾零置雪師風之共此間散良思春者雖  
有

右一首筑波山作

為君山田之澤惠具採跡雪消之水爾裳裾所  
沾  
梅枝爾鳴而移徙鸞之翼白妙爾沫雪曾落  
山高三零來雪乎梅花落鴨來跡念鶴鴨

初云惠安有并也  
第上足引乃山單  
由安于其并亦驗  
故云惠具採和名  
抄語于下田味耳  
醜一説云鳥并  
今久輪為惠武  
具上五所アリ

一云梅花開香裳落跡  
除雪而梅莫戀是曳之山片就而家居為流君

右二首問答

詠霞

昨日社年者極之賀春霞春日山爾速立爾來  
寒過暖來良思朝烏指澤鹿能山爾霞輕引  
鸞之春成良思春日山霞棚引夜目見侶

詠柳

約集集遠道  
松之の松の柳  
松之の松の柳

霜下冬柳者見人之纏可為日生來鴨

淺緑染懸有跡見左右二春楊者日生來鴨

山際爾雪者零管然為我二此河楊波毛延爾

家留可聞

望蓋以水沃飯則流故借訓致

山際之雪不消有乎水飯合川之副者日生來鴨

朝且吾見柳鶯之來居而應鳴森爾早奈禮

青柳之絲乃細紗春風爾不亂伊間爾令視子

裳欲得

百磯城大宮人之纏有垂柳者雖見不飽鴨

梅花取持見者吾屋前之柳乃眉師所念可聞

詠花

鶯之木傳梅乃移者櫻花之時片設奴

櫻花時者雖不過見人之戀盛常今之將落

我刺柳絲乎吹亂風爾加妹之梅乃散覽

每年梅者開友空蟬之世人君羊蹄春無有來

打細爾鳥者雖不喫繩延守卷欲寸梅花鴨

和歌集  
之市人位  
時家梅歌

望多々木(櫻)ニ  
アラハキキ水  
ヲ云

ウニナクテ、タカキマヘ、ヲ、シロタニニ、ホハシ、ケルハ、ウメノハナカモ  
 馬並而高山部乎白妙丹令艷色有者梅花鴨  
ハナサキテ、ミ、ハ、ナラ子ト、モ、ナカキケニオモホユルカモヤマフキノ、ハナ  
 花咲而實者不成登裳長氣所念鴨山振之花  
ノト、カハノ、ミナソコサヘニ、テルマテニ、ミ、カサノ、ヤマハ、サキニ、ル  
 能登河之水底并爾光及爾三笠之山者咲來  
カモ、大和能登瀨川  
 鴨  
ユキミルハ、イマタフユナリシカス、カニハルカスミタキウメハ、チリツ、  
 見雪者未冬有然為解春霞立梅者散乍  
コ、ソ、サキシ、ヒサキ、イマサクイタツラニツチニヤオキム、ミルヒトナ、シニ  
 去年咲之又木今開徒土哉將墮見人名四二  
ア、シ、ヒ、キ、ノ、ヤマノ、ミ、テラスサクラハナコノハルサメ、チリユカム、カ、ヒ  
 足日木之山間照櫻花是春雨爾散去鴨  
ウチナヒキハルサリクラシ、ヤメノハノ、サキノスユノ、サキユクミレハ  
 打靡春避來之山際最木末之咲往見者

置末ニ子ヲ讀  
カケ  
梅新葉之誤歟

キ、ス、ナク、タカミトノヘ、ニ、サクラハナチリナカラフルミルヒトモ、カ、モ  
 春鶉鳴高圓邊丹櫻花散流歷見人毛我裳  
及和、ヤメノ、サ、子、キノ、ハナハ、ケ、フ、モ、カモ、チリニカララミルヒトナシ  
 阿保山之佐宿木花者今日毛鴨散亂見人無  
ニ、ニ、  
 二  
カハツ、ナクヨシノ、カハノ、タキノウヘノ、ツ、シ、ノ、ハナツ、ウクニマ、モ  
 川津鳴吉野河之瀧上乃馬醉之花曾置末勿  
ナキ  
 勤  
ハルサメニ、アラソヒカ、子、チ、ワカヤ、ト、ノ、サクラノハナハ、サキソメニ  
 春雨爾相爭不勝而吾屋前之櫻花者開始爾  
ケ、リ  
 家里  
ハル、ア、メ、ハ、イ、タ、ク、ナ、フリソサクラハナ、イ、マ、タ、ミ、ナ、ク、ニ、チ、ラ、マ、ク、オ、シ、モ  
 春雨者甚勿零櫻花未見爾散卷惜裳

春去者散卷惜櫻花序時者不咲含而毛欲得  
見渡者春日之野邊爾霞立開艷者櫻花鴨  
何時鴨此夜之將明鷺之木傳落梅花將見

詠月

春三伏一向夜者三遠二近也三遠謂工強已下至下強之終也一近謂上強也

春霞田菜引今日之暮三伏一向夜不穢照良

武高松之野爾

春去者紀之許能暮之夕月夜鬱東無裳山陰

爾指天一云春去者木陰多暮月夜

朝霞春日之晚者從木間移歷月乎何時可將  
待

詠雨

春之雨爾有來物乎立隱妹之家道爾此日晚  
都

詠河

今往而春物爾毛我明日香川春雨零而瀟津  
湍音乎

春而喻甚不降也

十訓抄云ワラハハノクツフキヤイトイフモノニツクテ三ツアツヌケルヲ月夜ト云也

萬葉卷十

詠煙

カスカ スニ ナフタツミユ オトメ ラシ ハル カ 春日野爾煙立所見 媿孀等四 春野之菟茅子 カ 採而煮良思文 モ

野遊

カスカ ス アサキ カ ヲヘニ オモフトチ アツケフツ ハワ 春日野之淺茅之上爾念共遊 今日忘目八方 ハル 春霞立春日野乎 往還吾者相見 彌年之黄土 ハル 春野爾意將述跡 念共來之 今日者不脱毛荒 カ 粳 スカ

意訓許ハ亦通然ハ猶宜於毛

百磯城之大宮人者暇有也 梅乎挿頭而此間 集有

歎舊

フユスキテハルニキ ヌレハト シツキハ アラタ ミレトモ ヒト ハ フリ ユク 寒過暖來者 年月者 雖新有人者 舊去 物皆者新吉唯人者 舊之應宜

權逢

住吉之里得之鹿齒 春花乃益希見 君相有香 聞

長流香住之里也 宜訓復美字之乃 等六迹京寄亦有 丑哉

之蓋舊之誤布 利亦布利叔也

萬葉集卷十

旋頭歌

カスカナルミカサノヤマニツキモイテヌカモサキヤマニ  
春日在三笠乃山爾月母出奴可母佐紀山爾  
サケルサクラノハナノミルヘク  
開有櫻之花乃可見

見并天和國添下郡

シラユキノトコレクフユハスキニケラシモハルカスミタナヒクヌ  
白雪之常敷冬者過去家良霜春霞田菜引野

邊之鶯鳴鳥

之悲不

譬喻歌

ワカヤトノケモノシタニツキヨサシタコロヨシタタテコノ  
吾屋前之毛桃之下爾月夜指下心吉菟楯頃  
者

春相聞

カスカ又ニイヌルウクヒスナキワカレヘリマヌホトオモヒマズワレ  
春日野犬鶯鳴別春益間思御吾  
フユコモリハルサクハナヲヨリモチテキ  
冬隱春開花手折以千遍限戀渡鴨

ハルヤノノキリニドヘルウクヒスモワレニニサリテモノキモハメヤ  
春山霧惑在鶯我益物念哉

イテ、ミルムカヒノサカシモトシケクサキタルハナノノラスハヤマニ  
出見向崗本繁開在花不成不止

カスミタツハルノナカヒヲコヒクラレヨノフケユケハイモニアヘルカモ  
霞發春永日戀暮夜深去妹相鴨

ハルサレハマツリキクサノサキクアラハノチモアヒミムナコヒソ  
春去先三枝幸命在後相莫戀吾妹

ハルサレハシタリヤナキノトヲシモイモカコ、ロニノリニケルカモ  
春去為垂柳十緒妹心乘在鴨

天下脱日字歌

若花下宜為讀  
訓太遠利毛知

右柿本朝臣入磨歌集出

寄鳥

和名鵲也漢語抄伯勞毛受一名鵲草具吉音也久利及後又古事記門淤加美神自于股漏落云言以鵲潛草而欲求食虫喻難見也

ハルサレバモスノクサクキミストモワレハミ  
春之在者伯勞鳥之草具吉雖不所見吾者見  
アラムキミカアツリハ  
將遣君之當婆  
カホトリノナクハナクハルノヌクサチノシキコヒモスルカモ  
容鳥之間無數鳴春野之草根之繁戀毛為鴨

寄花

ハルサレバウノハナクダシワカコエシイモカカキハハアレミ  
春去者字乃花具多思吾越之妹我垣間者荒  
ケルカモ  
來鴨

治府四之謂

草具吉草ハ也草中ハ三藤根花又ク引ノカ向立ハナホトストイモモスル也古事記ニ也具土神ヲ斬マフニ集御カニ手ニ血自手後漏出所成神名訓漏云俊又少名彦名神ノ子イサキ事ヲ御祖神ノタニク自手候久後斯子也此外ニモ多キ訓

宇下悲脱梅字或米

下夜之恋者下心尔待之恋也梅徒心也

梅花咲散苑爾吾將去君之使呼片待香花光  
フチナミノサケルハルノニハフクスノシタヨノコヒハヒサシクモアリ  
藤浪咲春野爾蔓葛下夜之戀者久雲在  
ハルノヌニカスミタナヒキサクハナノカクナルマテニアハヌキミ  
春野爾霞棚引咲花之如是成二手爾不逢君

可母

ワカセコニワカコフラクハオクヤマノツレノハナノイマサカ  
吾瀬子爾吾戀良久者奥山之馬醉花之今盛  
ナリ  
有

ウスノハナシタリヤナキニツリニセテハナニソナヘハキミニアハムカモ  
梅花四垂柳爾折雜花爾供養者君爾相可毛  
ヲミナヘンサクヌニオフルレラツシレラヌコトモテイハレシワカ  
姫部思咲野爾生白管自不知事以所言之吾

神三供スル

之清是此也  
亦十九号三見

背

ウメノハナワレハ、チラサシ、アヲニ、ヨシナラ、ナルヒトノキ、ツ、ミルカ  
梅花吾者不令落青丹吉平城之人來管見之

根

カクシアラハ、ナニ、ウエケムヤ、フキノ、ヤムトキモ、ナクコフラ、ク  
如是有者何如殖兼山振乃止時喪哭戀良誓

念者

寄霜

ハルサレハ、ミ、クサノ、ウヘニ、オクシモノ、ケ、ツ、モ、ワレハ、コヒワタル  
春去者水草之上爾置霜之消乍毛我者戀度

鴨

秋夜長春日長  
忘カ子ノ恋度可  
南ト

寄霞

ハルカスミヤマニタナヒ、オホツカナイモヲ、アヒミテノキコヒムカモ  
春霞山棚引鬱妹乎相見後戀毳

ハルカスミタチニ、コ、ヨリケフマテニ、ワカコヒヤミス、モトノ、シケケ  
春霞立爾之日從至今日吾戀不止本之繁家

波 一云片念爾指天

サニ、ツラフ、イモヲ、オモフト、カスミタツハルヒ、モ、クレニ、コヒワタルカ  
左丹頰經妹乎念登霞立春日毛晚爾戀度可

母

タミキ、ハルワカマニノ、ウヘニ、タツカスミタチテモ、井テモ、キミカ、マニ、  
靈寸春吾山之於爾立霞雖立雖座君之隨意

ミ、ワタセハ、カスカノ、ス、ヘ、ニ、タツカスミミ、マクノ、ホシキキミカ、ス  
見渡者春日之野邊爾立霞見卷之欲君之容

秋夜長春日長  
之語命有極之哉  
也



檢悲人元

儀香

戀乍毛今日者暮都霞立明日之春日乎如何  
將晚

寄雨

吾背子爾戀而為便莫春雨之零別不知出而  
來可聞

今更君者伊不往春雨之情乎人之不知有名  
國

言若七日雨降則  
應七夜不來矣

春雨爾衣甚將通哉七日四零者七夜不來哉  
梅花令散春雨多零客爾也君之廬入西留良  
武

寄草

國栖等之春菜將採司馬乃野之數君麻思比

春草之繁吾戀大海方往浪之千重積  
不明公乎相見而管根乃長春日乎孤戀渡鴨

吉野栖等國ノミ

日

瀉

吉野

悲歎

寄松

ウメノハナケキテ 千リナ ハ ワキモコヲ コム カコ ジカト ワカ  
梅花咲而落去者 吾妹乎 將來香不來 香跡吾  
待乃木曾

寄雲

シラマ ユミイマハル ヤマニ ユククモノ ユキヤ ワカレムコヒシキモノヲ  
白檀弓 今春山爾去雲之遊哉 將別戀數物乎

贈蘊

マストラツノ フシ井 ナケキテ ツクリタルニ タリヤナキノ カツラセヨワキモ  
大夫之伏居嘆而造有 四垂柳之蘊為吾妹

悲別

丈

アサト イテノ キミカ ヨソヒヲ ミ ス テ ナカキハルヒ ヲ コヒヤ  
朝戸出之君之儀乎 曲不見而 長春日乎 戀八

九良三

問答

ハルヤマノ ツ、シノハナノ ニクカラヌキミニニ ハシユ ヤヨリヌ トモ  
春山之馬醉花之不惡 公爾波思惠也 所因友

好

イソノカミフルノ カミスキカミヒテモ ワレヤ ガラガラコヒニ アヒニケ  
石上振乃神杖 神備而吾八更更 戀爾相爾家

留

右一首不有春歌而猶以和故載於茲次

備忘脱伍字

萬葉集卷十

狹野方波實爾雖不成花耳開而所見社戀之名草爾

狹野方波實爾雖不成花耳開而所見社戀之名草爾

狹野方波實爾成西乎今更春雨零而花將咲

八方

梓弓引津邊有莫告藻之花咲及二不會君

川上之伊都藻之花之何時何時來座吾背子

時自異目八方

春雨之不止零零吾戀人之目尚矣不令相見

得春雨不未也

吾妹子爾戀乍居者春雨之彼毛知如不止零

乍

相不念妹哉本名菅根之長春日乎念脱牟

春去者先鳴鳥乃鷺之事先立之君乎之將待

相不念將有兒故玉緒長春日乎念晚父

夏雜歌

詠鳥

大夫丹出立向故鄉之神各備山爾明來者柘

丈

藻花久會而後發

見第四

津國

常夏云元茶紀天皇謂云通帝姬曰是歌不可聆他人皇后聞必大恨故時人号濱藻

詔奈能利曹毛の和名故云莫鳴母本朝云云莫鳴菜 奈々里曾漢語抄云

馬莫騎之義也

喻淚也

以出師之義丈夫為出立向之枕碎

大和

小森

ノサエタニ ユフサレハ コマツカ ウレニ サトヒトノキ、コフル  
 之左枝爾暮去者小松之若末爾里人之聞戀  
 テ ヤマヒコノコタフルマ テニホト、キスツ コヒスラ  
 麻田山彦乃答響萬田霍公鳥都麻戀為良思  
 サヨ ナカニナク  
 左夜中爾鳴

反歌

タヒニレ テツマコヒス ラモ ホトトキス カミナヒ ヤマニサ  
 客爾為而妻戀為良思霍公鳥神名備山爾左  
 ヨフケテナク  
 夜深而鳴

右古歌集中出

長命續

ホト、キス、ナカハツコエハ ワレニモカモ サツキノ タニニマシテ  
 霍公鳥汝始音者於吾欲得五月之珠爾交而

將貫

アサカスミタナヒクヌ ベニアシヒ キノ ヤニホト、キス、イツカ キナカ  
 朝霞棚引野邊足檜木乃山霍公鳥何時來將

鳴

アサカスミヤ ヤマコエテ ヨフコ トリナキヤ ナカクルヤ トモ アラ  
 旦霞八重山越而喚孤鳥吟八汝來屋戸母不

有九二

ホト、キス、ナクコエキクヤ ウノ ハナノ サキナルヲカニ タクサヒク  
 霍公鳥鳴音聞哉字能花乃開落岳爾田草引

臧孀

ツキヨ ヨシナクホト、キス、ミナクホリワカサヲトレル ミムヒトモ ガナ  
 月夜吉鳴霍公鳥欲見吾草取有見人毛欲得

今城大和地  
見第九

フナナミノ 千フマクヲシホト、キス、イマキノヲカヲ、ナキテ、コエナリ  
藤浪之散卷惜、霍公鳥、今城岳叫、鳴而越奈利  
アサキリノヤ、ヘ、ヤ、マ、コ、エ、テ、ホト、キス、ウ、ノ、ハ、ナ、ヘ、カ、ラ、ナ、キ、テ、コ、エ、ラ、シ、ム  
且霧八重山越而、霍公鳥、字能花邊柄、鳴越來  
コ、タ、カ、ク、ハ、カ、ツ、テ、キ、ウ、ユ、ジ、ホト、キス、キ、ナ、キ、ト、ヨ、シ、テ、コ、ヒ、ニ、サ、ラ、シ、ム  
木高者、曾木不殖、霍公鳥、來鳴、令響而、戀令益  
ア、ヒ、カ、タ、キ、キ、ニ、ア、ヘ、ル、ヨ、ホト、キス、コ、ト、キ、ヨ、リ、ハ、イ、マ、コ、ソ、ナ、カ、ク、  
難相、君爾逢有夜、霍公鳥、他時從者、今社鳴目、  
コ、ノ、ク、レ、ノ、ユ、フ、ヤ、ミ、ナ、ル、ニ、  
木晚之、暮闇有爾、  
有、一、云、者、  
霍公鳥、何處乎、家登鳴  
ワ、タ、ル、ラ、ム、  
渡良哉、  
ホト、キス、ケ、サ、ノ、ア、サ、ケ、ニ、ナ、キ、ツ、ル、ハ、キ、ミ、キ、ク、ラ、ム、カ、ノ、ソ、  
霍公鳥、今朝之、且明爾、鳴都流波、君將聞、可朝  
イ、カ、ヌ、ラ、ム、  
宿疑將寐、

哉

常直梅四字子恐  
行恨哉一字當訓  
字初多兼加夜  
神武紀云慨哉  
慨哉此云字初  
多兼加夜

丹之山也非名  
取

ホト、キス、ハ、ナ、タ、チ、ハ、ナ、ノ、エ、タ、ニ、井、テ、ナ、キ、ト、ヨ、セ、ハ、ハ、ナ、ハ、チ、リ、ツ、  
霍公鳥、花橘之枝、爾居而、鳴響者、花波散、  
ヨ、シ、ヤ、  
ユ、ク、ホ、ト、キ、ス、  
コ、ノ、ヨ、ラ、ノ、オ、ホ、ツ、カ、ナ、キ、ニ、ホト、キス、ナ、ク、ナ、ル、コ、エ、ノ、オ、ト、ノ、  
慨哉、四、去霍公鳥、今社者、音之、干、蟹來、喧響目、  
今夜乃、於保束、無荷、霍公鳥、喧奈流聲之、音乃  
ハ、ル、ケ、サ、  
遙左、  
サ、ツ、キ、ヤ、マ、ウ、ノ、ハ、ナ、ツ、キ、ヨ、ホト、キス、キ、ケ、ト、モ、ア、カ、ス、マ、タ、ナ、カ、ム、カ、モ、  
五月山、字能花、月夜、霍公鳥、雖聞不飽、又鳴鴨、  
ホト、キス、キ、井、テ、モ、ナ、ク、カ、ワ、カ、ヤ、ト、ノ、ハ、ナ、タ、チ、ハ、ナ、ノ、ツ、チ、ニ、オ、キ、  
霍公鳥、來居、裳鳴香、吾屋前、乃、花橘、乃、地、二、落  
△、三、△  
六見牟、  
ホト、キス、イ、ト、フ、ト、キ、ナ、レ、ア、ヤ、ヌ、ク、サ、カ、ツ、ラ、ニ、セ、ム、ヒ、コ、ユ、ナ、キ、ワ、タ、レ、  
霍公鳥、厭時無、菖蒲、蘊將為日、從此、鳴度、禮

南葉集卷十

雲

製之蓋所曝  
之衣袖款

山跡庭啼而香將來霍公鳥汝鳴每無人所念  
 宇能花乃散卷惜霍公鳥野出山入來鳴令動  
 橘之林乎殖霍公鳥常爾冬及住度金  
 雨晴之雲爾副而霍公鳥指春日而從此鳴度  
 物念登不宿旦開爾霍公鳥鳴而左度為便無  
 左右二  
 吾衣於君令服與登霍公鳥吾乎領袖爾來居  
 管

君ニカケル意ノ時カケル也

一地之領

疑母

本人霍公鳥乎八希將見今哉汝來戀乍居者  
 如是許雨之零爾霍公鳥宇之花山爾猶香將  
 鳴

詠蟬

默然毛將有時母鳴奈武日晚乃物念時爾鳴  
 管本名

言吾不物思時晚蟬可鳴也

詠榛

思子之衣將摺爾爾保比與島之榛原秋不立

製云比下疑朕世  
若製字  
島之榛原奈  
之地名

與松為之誤草書相近

友

詠花

風散花橘叫袖受而為君御跡思鶴鴨

香細寸花橘乎玉貫將送妹者三禮而毛有香

霍公鳥來鳴響橘之花散庭乎將見人八孰

吾屋前之花橘者落爾家里悔時爾相在君鴨

見渡者向野邊乃石竹之落卷惜毛雨莫零行

年

思悲德

契多三礼者三禮  
第九三礼同

橘花落盡而  
後君來也

雨間開而國見毛將為乎故鄉之花橘者散家

牟可聞

野邊見者瞿麥之花咲家里吾待秋者近就良

思母

吾妹子爾相市乃花波落不過今咲有如有與

奴香聞

春日野之藤者散去而何物鴨御狩人之折而

將挿頭

御六  
已世當訓  
已世略

トキナラヌタマシ  
不時玉乎曾連有  
宇能花乃  
五月乎待者可久  
有

問答

宇能花乃咲落岳從霍公鳥鳴而沙渡公者聞

津八

聞津八跡君之問世流霍公鳥小竹野爾所沾  
而從此鳴綿類

譬喻歌

治

橘花落里爾通名者山霍公鳥將令響鴨

夏相聞

寄鳥

春之在者醉輕成野之霍公鳥保等穗跡妹爾  
不相來爾家里

五月山花橘爾霍公鳥隱合時爾逢有公鴨

霍公鳥來鳴五月之短夜毛獨宿者明不得毛

寄蟬

冬滿案可宜  
訓奈須鳴訓  
亦須然則啼  
亦同

疑夏之誤

ハルサレハスカルナルス  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト

サツキヤマハナタチハナニ  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト

ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト

ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト  
ホトホトホトホト



日倉足者時常雖鳴我戀手弱女我者不定哭

寄草

人言者夏野乃草之繁友妹與吾携宿者  
迺者之戀乃繁夕夏草乃苜蓿友生布如  
真田葛延夏野之繁如是戀者信吾命常有目

八方

吾耳哉如是戀為良武垣津旗丹類令妹者如  
何將有

頼留

寄花

序搯爾絲叫曾吾搯吾背兒之花橘乎將貫跡

母日手

鸞之往來垣根乃宇能花之厭事有哉君之不

來座

宇能花之開登波無二有人爾戀也將渡獨念

爾指天

吾社葉憎毛有目吾屋前之花橘乎見爾波不

序

不嘆之人也以嘆喻思我

來鳥屋

ホト、キス、キ、ナキトヨマスカヘ、ナルフナナミレハ、キミハ、コジト  
霍公鳥來鳴動、崗部有藤浪見者、君者不來登  
夜

カクシノミコフレハ、クルニナテニコノ、ハナニ、サキイテヨ、アササナ、ミム  
隱耳、戀者苦、瞿麥之花、爾開出與朝旦將見

ヨソニノミミ、ツ、ヤコヒム、クレナ井ノ、スエツムハナノ、イロニイテス、トモ  
外耳見、箇戀年、紅乃未採、花乃色不出友

寄露

ナツクサノ、ツユワケコロモキモセヌニ、ワカコロモテ、ノ、ヒルトキモナキ  
夏草乃露別衣、不著爾我衣、手乃干時毛名寸

寄日

三十ツキノ、ツチサヘサケテ、テルヒ、ニ、モ、ワカソテ、ヒメ、ヤ、キミニ  
六月之地、副割而照日、爾毛吾袖將乾哉、於君

アハス、シ、テ、不相四手

秋雜歌

七夕

アノカハミツサ、ヘニ、テルフナワリ、フチコクヒトニモト、三エ、ス、ヤ  
天漢水左閉而照舟、竟舟人妹等所見寸哉

ヒサカタノ、アノカハラ、ニ、又、エ、トリノ、ウラナキ、ベシツ、トモニキマテ  
久方之天漢原丹、奴延鳥之、裏歎座津之、諸手

丹

ワカコヒシイモハ、ヒルヲ、ユクフ子ノ、スキテ、クベシ、ヤ、コトモ、ツケラヒ  
吾戀孀者知遠、往船乃過而應來哉、事毛告火

萬葉集卷十

二五

須言諾也

拾遺三

古三子... 耳相... 吾思... 七夕... 天漢... 丹... 吾戀...

兵部... 隱耳... 外耳... 寄露... 寄日... 夏草... 六月... 不相... 秋雜... 七夕... 天漢... 久方... 丹... 吾戀...

色影子者指...

具德行與者...

已正觀織女之...

第九望月乃滿...

余小之誤

聖月人船者...

水長殿

アカララ... ヒトツマユニワレコロヒ又ヘシ

朱羅引色妙子數見者人妻故吾可戀奴

天漢安渡丹船浮而秋立待等妹告與具

從蒼天往來吾等須良汝故天漢道名積而叙

來

ヤチ... ケリツキテモモヘハ

八千戈神自御世乏嫺人知爾來告思者

吾等戀丹穗面今夕母可天漢原石枕卷

已嫺之子等者竟津荒磯卷而寐君待難

天地等別之時從自嫺然叙手而在金待吾者

彦星嘆須嫺事谷毛告余叙來鶴見者苦彌

久方天印等水無河隔而置之神世之恨

黑玉宵霧隱遠鞠妹傳速告與

汝戀妹命者飽足爾袖振所見都及雲隱

夕星毛往來天道及何時鹿仰而將待月人壯

天漢已向立而戀等爾事谷將告嫺言及者

水良玉五百都集乎解毛不見吾者干可太奴

相日待爾

此四字未詳

相日待爾

相日待爾

相日待爾

白訓秋是白秋  
氣也種全風訓  
秋風

天漢水陰草金風靡見者時來之  
吾等待之白茅子開奴今谷毛爾寶比爾往奈  
越方人邇

吾世子爾裏戀居者天河夜船撈動旌音所聞

真氣長戀心自白風妹音所聽紉解往名

戀敷者氣長物乎今谷乏牟可哉可相夜谷

天漢去歲渡伐遷閉者河瀨於踏夜深去來

自古舉而之服不顧天河津爾年序經去來

敷者之計礼  
畧語

伐場也

舉系於機上  
而思牽牛

聖者下孟脫  
哉字

婦

稱目者寢見也  
種奈通

天漢夜船撈而雖明將相等念夜袖易受將有  
遙嬾等手枕易寐夜雞音莫動明者雖明  
相見久厭雖不足稻目明去來理舟出為牟嬾  
左足始而何太毛不在者白栲帶可乞哉戀毛  
不遏者

萬世携手居而相見鞠念可過戀奈有莫國  
萬世可照月毛雲隱苦物叙將相登雖念  
白雲五百遍隱雖遠夜不去將見妹當者

以月喻思

言今所著之夜  
先織了之衣也

和名椒尔雅云子  
子為孫幸也及和  
一名此 名區方古

聖云雲下忘脫  
立字子

ワカタメト タナハタツメノ ツノヤト ニ ツルミラヌノハザリテ ケムカモ  
為我登織女之其屋戶爾織白布織豆兼鴨

君不相父時織服白袴衣垢附麻豆爾

天漢梶音聞孫星與織女今夕相霜

秋去者河霧天川河向居而戀夜多

吉哉雖不直奴延鳥浦嘆居告子鴨

一年邇七夕耳相人之戀毛不遏者夜深往久

毛

一云不盡者佐宵曾明爾來 言本大文字也

天漢安川原定而神競者磨待無 言不定故待七夕而後觀

此歌一首庚辰年作之

右柿本朝臣人磨歌集出 裕衣

棚機之五百機立而織布之秋去衣孰取見 摩牛取見也

年有而今香將卷烏玉之夜霧隱遠妻手乎

吾待之秋者來沼妹與吾何事在曾紉不解在

年

年之戀今夜盡而明日從者如常哉吾戀居年

契沖云庚辰天  
武天皇皇白風九  
年也

年每年也

アハザルバケ ナカキモノヲ アモノカハヘタテ、マヤ、ワカコヒヲラム  
不合者氣長物乎天漢隔又哉吾戀將居  
コヒケケケ ナカキモノヲ アフベクアルヨヒタニキミカ キマサ、ル  
戀家口氣長物乎可合有夕谷君之不來益有  
ラ合

良武

ヒコホシト 多ハタツヌトコ ヨヒアハムアモノカハト ニ 十三タツキ ユメ  
牽牛與織女今夜相天漢門爾波立勿謹  
アキカセノフキタ、ヨハスシラクモハ 多ハタツヌノ アマツヒレ カモ

秋風吹漂蕩白雲者織女之天津領巾毳  
シハ、モアヒ ミヌ キミヲ アモノカハフナテ ハヤセヨヨノフケヌ マニ

數裳相不見君矣天漢舟出速為夜不深間  
アキカセノ キヨキユフヘニアモノカハフ子コキワタルツキヒトヲトコ

秋風之清夕天漢舟榜度月人壯子  
アモノカハキリタチワタルヒコホシノ カチノオトキコユ ヨノフケユハ

天漢霧立度牽牛之楫音所聞夜深往

キミカフ子イマコキク ラシ アモノカハキリタチワタルコノカハノセニ  
君舟今榜來良之天漢霧立度此川瀨  
アキカセニ カハナミタチヌシハラタハヤソノフナツニミ フ子ト、ムム

秋風爾河浪起暫八十舟津三舟停  
アモノカハカハオトキヨシ ヒコホシノ アキコクフ子ノ ナミンサワタカ

天漢川聲清之牽牛之秋榜船之浪躡香  
アモノカハカハトニタチテワカコヒシ キミキマスナ リ ヒモトキマタム

天漢川門立吾戀之君來奈里紉解待 一云  
アモノカハカハムキタチ

天川河向立

天漢川門座而年月戀來君今夜會可母  
アス ヨリハ ワカタマユカラヲ サチハラヒキミトハ子スチ ヒトリカ モ 子ム

明日從者吾玉床乎打拂公常不宿孤可母寐  
アノハラ子キヤルト シラムニヒキテ カクセルツキヒトヲトコ

天原往射跡白檀挽而隱在月人壯子  
ヤトハム

射獵也訓字之白  
檀引而隱謂七  
日之月入也

賀伊乃散者  
此夕雨也

製拾遺集  
今夜

コノユフヘフリクルアメハヒコホシノハヤコクフ子ノカイノ  
此夕零來雨者男星之早撈船之賀伊乃散鴨  
アノカハヤソセキリヤフヒコホシノトキマツフ子ハイマコクラ  
天漢八十瀨霧合男星之時待船今撈良之  
カセフキテカハナミタチヌヒクフ子ニワタリモキセヨノフケヌマニ  
風吹而河浪起引船舟度裳來夜不降間爾  
アノカハトホキワタリハナケレトモキミカフナテハトシニコソマテ  
天河遠度者無友公之舟出者年爾社候  
アノカハウチハシワタズイモカイヘチヤマスカヨハムトキマダストモ  
天河打橋度妹之家道不止通時不待友  
ツキカサ子ワカオモフイモニアヘルヨハコノナヌカノヨツキコセヌカモ  
月累吾思妹會夜者今之七夕續巨勢奴鴨  
トシニヨソフワカフ子コカンアノカハカセハフシトモナミタツナユメ  
年丹裝吾舟撈天河風者吹友浪立勿忌  
アノカハナミハタツトモワカフ子ハイサコキイテ△ヨノフケヌマニ  
天河浪者立友吾舟者率撈出夜之不深間爾

踏木織衣之時  
所乘之木也

神下云于玉玲  
瓊織仕之

タハコヨヒアヒタルコラニコトトヒモイマダセヌシテサヨソアケ  
直今夜相有兒等爾事問母未為而左夜曾明  
ニケル  
二來  
アノカハシラナミタカクワカコフルキミカフナテハイニソスラシモ  
天河白浪高吾戀公之舟出者今為下  
ハタモノフミギモテイテアノカハウチハシワタスキミカコムタメ  
機蹋木持往而天河打橋度公之來為  
アノカハキリタチノホルタナハタノクモノコロモノカナルソテカモ  
天漢霧立上棚幡乃雲衣能飄袖鴨  
イニシヘニリテシハタヲコノユフヘコロモニヌヒテキミマツワレヲ  
古織義之八多乎此暮衣縫而君待吾乎  
アシタニモテタマモユラニヲルハタヲキミカミケシニヌヒ  
足玉母手珠毛由良爾織旗乎公之御衣爾縫  
アヘムカモ  
將堪可聞  
古事記蘇近柿理能阿遠岐美耶斯

萬葉卷十

月日者七月七日也

ツキヒエリテアヒテシ  
アレハワカレチノヲシカルキミハ  
アスサヘモ  
擇月日逢義之有者  
別乃惜有君者  
明日副裳  
欲得冀明日亦未

言織女奉幣

天漢渡瀨深彌泛船而掉來君之  
楫之音所聞  
天原振發見者天漢霧立渡公者來良志  
天漢瀨每幣奉情者君乎幸來座跡  
久方之天河津爾舟泛而君待夜等者不明毛  
有寐鹿  
天河足沾渡君之手毛未枕者夜之深去良久

常夏和名秋日本  
渡子和名秋日本  
和利和名秋日本  
毛利和名秋日本

契之意言牽牛  
之引水之船既近  
河畔故人亦說  
星相會言不復  
漢中

渡守船度世乎跡呼音之不至者疑  
槐之聲不為  
真氣長河向立有之袖今夜卷跡念之吉沙  
天漢渡瀨每思乍來之雲知師逢有久念者  
人左倍也見不繼將有牽牛之孀喚舟之近附  
往乎一云見乍有良武  
天漢瀨乎早鴨烏珠之夜者闌爾乍不合牽牛  
渡守舟早渡世一年爾二遍往來君爾有勿久



爾

タニカウラタエヌ モノカ 奈我良也 ラサヌラハ トシノ ワタリニ タ、ヒトヨ ノミ

玉葛不絶物可良佐宿者年之度爾直一夜耳

コフルヒ ハケ ナカキモノヲ コヨヒ タニトモシムヘシヤ アフヘキモノヲ

戀日者氣長物乎今夜谷令乏應哉可相物乎

タナハタノ コヨヒ アヒナハ ツチノコトア ス ヲヘタテ、 トシハ ナカ

織女之今夜相奈婆如常明日乎阻而年者將

長 ケル アミノカハタナハシワタスタナハタノ イ ワタラサ ム ニ タナハシワタス

天漢棚橋渡織女之伊渡左牟爾棚橋渡

アミノカハカハト ヤ ソ アリイツコニ カ キミカ ミ フチヲ ワカマチヲラ

天漢河門八十有何爾可君之三船乎吾待將

居 △ アキカセノ フキニシヒ ヨリアノカハセ ニ イテタキマツト ツケコ ツ

秋風乃吹西日從天漢瀨爾出立待登告許曾

アミノカハコ ツノ ワタリセ アレニ ケリ キミカキマサム ミチノ シラナ

天漢去年之渡湍有二家里君將來道乃不知

父 ク アミノカハセ ヲ ニ シラナミタカケレトタ、ワタリキ 二幸者待也 マテハ クルニミ

天漢湍瀨爾白浪雖高直渡來沼待者苦三

ヒコホシノ ツミヨフフ子ノ ヒクツナノ タエム ト キミジ ワカキモハナ

牽牛之孀喚舟之引網乃將絕跡君乎吾念勿

國 クニ 此哥七クノ哥ニアマ上ノウハタエ下ノイハム科 ワタリモリフナテ シ イテム コヨヒ ノミアヒミ テ ノキハ アハヒ モノ

渡守舟出為將出今夜耳相見而後者不相物

可毛 カモ

出二本作去

和名抄唐詩云 牽綬結 訓豆 奈天挽船繩也

架橋橋如棚故 云棚橋

吾隱有檝棹無而渡守舟將惜八方須臾者有

待

乾坤之初時從天漢射向居而一年舟兩遍不  
遭妻戀爾物念人天漢安乃川原乃有通出出  
乃渡舟具穗船乃艦舟裳舳丹裳船裝真槎繁  
拔旗荒本葉裳具世丹秋風乃吹來夕丹天川  
白浪凌落沸速湍涉雜草乃妻手枕迹大船乃  
思憑而擗來等六其夫乃子我荒珠乃年緒長

此渡者川岸  
出故云  
與三章半續  
在出之出  
却云具穗船  
製成等云刻  
舟和名秋云  
云般小而深者曰  
也  
也  
一本云  
准  
今  
之誤而宜世

思來之戀將盡七月七日之夕者吾毛悲鳥

反歌

狗錦紉解易之天人乃妻問夕叙吾裳將偲  
彥星之川瀨渡左小舟乃得行而將泊河津石

所念

天地跡別之時從久方乃天驗常豆大王天之  
河原爾瓊月累而妹爾相時侯跡立待爾吾衣  
手爾秋風之吹反者立坐多土伎乎不知村肝

御得者度也  
今  
之誤而宜世

今  
之誤而宜世

疑

天人之誤

冬浦案行上卷  
蓋脫如字致

心不欲解衣思亂而何時跡吾待今夜此川行  
長有得鴨

反歌

妹爾相時片待跡久方乃天之漢原爾月叙經  
來

詠花

竿志鹿之心相念秋茅子之鐘禮零丹落僧惜  
毛

契三秋訓時故  
金待難待時也

夕去野邊秋茅子末若露枯金待難

右二首柿本朝臣人磨之詞集出

真葛原名引秋風吹每阿太乃大野之茅子花

散

鴈鳴之來喧牟日及見乍將有此茅子原爾雨

勿零根

奥山爾住云男鹿之初夜不去妻問茅子之散

久惜裳

和名秋大和國宇智郡阿陀  
千ハ  
ハキノハナ  
オホヌ  
タ  
ハキノハナ  
オホヌ  
タ  
ハキノハナ  
オホヌ  
タ

行之之一本  
作去

白露乃置卷惜秋茅子乎折耳折而置哉枯  
秋田苜借廬之宿爾穗經及咲有秋茅子雖見  
不飽香聞

吾衣摺有者不在高松之野邊行之者茅子之

摺類曾

此暮秋風吹奴白露爾荒爭茅子之明日將咲

見

秋風冷成奴馬並而去來於野行奈茅子花見

爾

朝杲朝露負咲雖云暮陰社咲益家禮

春去者霞隱不所見有師秋茅子咲折而將挿

頭

沙額田乃野邊乃秋茅子時有者今盛有折而

將挿頭

事更爾衣者不摺佳人部為咲野之茅子爾丹

穗日而將居

和名抄大和國平郡  
額田沙者卷語

之本作是

未

アキカセハ ハヤシ フキケリハキノ ハナチラマクツシニ キホヒノクニ  
秋風者急之吹來茅子花落卷惜三競竟 競竟  
ワカヤトノ ハキ ノ ワカタ キ アキカセク フキナムトキニ サカ  
我屋前之茅子之若末長秋風之吹南時爾將

開跡思乎 ムト オモフシ

人皆者茅子乎秋云縱吾等者乎花之未乎秋  
トハ イハム

跡者將言 タマツサノキミカ ツカヒノ

玉梓公之使乃手折來有此秋茅子者雖見不  
又 カモ

飽鹿裳 ワカヤトニ

吾屋前爾開有秋茅子常有者我待人爾令見  
不變之謂

猿物乎 マシモノヲ

手寸十名相殖之名知久出見者屋前之早芽  
タキソナヘ ウエシ ナシルク イテミレバ ヤトノ ハツハ

子咲爾家類香聞 キ サキニケル カモ

吾屋外爾殖生有秋茅子乎誰標刺吾爾不所  
ワカヤトニ ウエオホシタルアキハキ ヲ エレカシメサスワレニ

知 セテ 意也

手取者袖并丹覆美人部師此白露爾散卷惜  
テニトレハ ソテサヘニ ツフヲミナヘ シ コノシラツユニ チラマクツシモ

白露爾荒爭金手咲茅子散惜兼雨莫零根  
シラツユニ アラソヒカ子テ サケルハ キ チラハラシケムアメナ フリソ子

媿孀等行相乃速稻乎蒞時成來下茅子花咲  
ヲトメ ラニユキアヒノ ワセ シ カルトキニナリニケラシモハキノ ハナサク

契多寸寸值加幾  
言其種之草已  
殖畢後出座中  
見則其子花開  
也  
直開多其利曾  
奈遍也其具之  
謂

頭昭云行相在龍  
田地名

朝霧之棚引小野之茅子花今哉散盥未厭爾  
戀之久者形見爾為與登吾背子我殖之秋茅  
子花咲爾家里

秋茅子戀不盡跡雖念思惠也安多良思又將  
相八方

秋風者日異吹奴高圓之野邊之秋茅子散卷

惜裳

大夫之心者無而秋茅子之戀耳八方奈積而

有南

吾待之秋者來奴雖然茅子之花曾毛未開家

類

欲見吾待戀之秋茅子者枝毛思美三荷花開

二家里

春日野之茅子落者朝東風爾副而此間爾落

來根

秋茅子者於鴈不相常言有者香有可聞音乎

茅子下疑二字

雖不盡意秋之心而見之後欲復見也

煩

三

三

二

八十廿

葛葉集卷十

卷十

卷十

露

聞而者花爾散去流

秋去者妹令視跡殖之芽子霧霜負而散來毳

詠鴈

大和方也

秋風爾山跡部越鴈鳴者射矢遠放雲隱筒

明闇之朝霧隱鳴而去鴈者言戀於妹告社

吾屋戸爾鳴之鴈哭雲上爾今夜喧成國方可

聞

遊群

直瀨邊二字蓋上哥方字下所脫後人誤置此處然則當以國方邊郡四字刻久迹辺

明闇昧且也宜濁訓

左小牡鹿之妻問時爾月乎吉三切木四之泣

所聞今時來等霜

天雲之外鴈鳴從聞之薄垂霜零寒此夜者

一云彌益益爾戀許曾增焉

秋田吾荊婆可能過去者鴈之喧所聞冬方設

而

葦邊在荻之葉左夜藝秋風之吹來苗丹鴈鳴

渡

秋田吾荊時也渡可者時分也

懸

一云秋風爾、鴈音所聞、今四來霜。

本大文字

押照難波穿江之葦邊者、鴈宿有疑霜乃零爾、

秋風爾、山飛越、鴈鳴之聲遠離、雲隱良思、

朝爾往、鴈之鳴音者如吾、物念可毛、聲之悲、

多頭我鳴乃、今朝鳴奈倍爾、鴈鳴者何處指香、

雲隱良哉、

野干玉之夜度、鴈者鬱幾、夜乎歷而鹿已名乎、

告、

武

後漢書  
野干玉  
鹿已名乎

璣年之經往者、阿跡念登、夜渡吾乎、問人哉、誰

詠鹿鳴

比日之秋朝、開爾霧隱、妻呼雄鹿之音之亮、左

左男壯鹿之妻、整登鳴音之將至、極靡芽子原、

於君戀裏、觸居者、敷野之秋、芽子凌左、牡鹿鳴

裳

駕來芽子者、散跡左、小牡鹿之鳴成音、毛裏觸

丹來

二德紀  
亮

萬葉集

卷之十一



アキハキノコヒモツキ子ハサヲシカノコヒイツキイツキ  
秋茅子之戀裳不盡者左小鹿之聲伊續伊繼  
伊三子全語

戀許增益焉

ヤマチカクイヘヤスムベキサヲシカノコヒヲキ、ツ、イ子カチヌ  
山近家哉可居左小牡鹿乃音乎聞乍宿不勝

鴨賞鹿聲也

ヤノベニイユクサツヲハオホカレトヤマニモヌニモサ  
山邊爾射去薩雄者雖大有山爾文野爾文沙

小牡鹿鳴母

アシロキノヤマヨリキニセバサツシカノツマヨフコエシカマシ  
足日木笑山從來世波左小鹿之妻呼音聞益

物乎

薩雄神代紀海  
幸山人幸らるる  
山ノ幸らるる  
事ノ幸らるる  
物ノ幸らるる

ヤマベニハサツヲノチヲラヒオソルレトヲシカナクナリツマノ  
山邊庭薩雄乃禰良比恐跡小牡鹿鳴成妻之

眼乎欲焉

アキハキノチリユクミレハイフカミツマコヒスラニサヲシカナク  
秋茅子之散去見鬱三妻戀為良思棹牡鹿鳴

母

アトホキサトニシアレハサヲシカノツマヨフコエハトモシクモ  
山遠京爾之有者狹小牡鹿之妻呼音者乏毛

有香

アキハキノチリスキユケハサツシカハワヒナキセム  
秋茅子之散過去者左小牡鹿者和備鳴將為

名不見者乏焉

焉疑衍

京日本紀割天  
枕登

何如之語中隱  
鹿而詠也

秋茅子之咲有野邊者左小牡鹿曾露乎別乍  
嬌問四家類

奈何牡鹿之和備鳴為成蓋毛秋野之茅子也

繁將落

秋茅子之開有野邊左牡鹿者落卷惜見鳴去

物乎

足日木乃山之跡陰爾鳴鹿之聲聞為八方山

田守醉兒

詠蟬

暮影來鳴日晚之幾許每日聞跡不足音可聞

詠蟋蟀

秋風之寒吹奈倍吾屋前之淺茅之本蟋蟀鳴

毛

影草乃生有屋外之暮陰爾鳴蟋蟀者雖聞不

足可聞

庭草爾村雨落而蟋蟀之鳴音聞者秋付爾家

庭草生庭中之  
草也非地當

影草陰草也皆  
之類

萬葉集

卷之十

四十一

里

詠蝦

加波津

三ヨシノ、イハモトサラス、ナクカハツ、ウヘモ、ナキケリカハツ、サヤケミ  
三吉野乃石本不避鳴川津諾文鳴來河乎淨  
カミナヒ、ノ、ヤマシタトヨミ、ユクミツニ、カハツ、ナクナリアキト、イハム  
神名火之山下動去水舟川津鳴成秋登將云

鳥屋

鳥屋者登天也之畧語

クサマクラタヒニ、モノオモフワガキケハ、ユフカタマケテ、ナクカハツ、カモ  
草枕客爾物念吾聞者夕片設而鳴川津可聞  
セツ、ハヤミ、オチタキチ、タルシラナニ、カハツ、ナクナリ、アサヨヒ  
瀨呼速見落當知足白浪爾川津鳴奈里朝夕

每

カミツセ、ニ、カハツ、ツマヨフユフサレハ、コロモテ、サムシ、ツマミカムト  
上瀨爾河津妻呼暮去者衣手寒三妻將枕跡

香

詠鳥

トモカテ、ヲ、トロシノイケノ、ナシマ、ヨリトリノ、セ、ナクアキスキヌヲ、シ  
妹手採取石池之浪間從鳥音異鳴秋過良之  
アキノス、ヲ、ハナカ、スエニナクモ、ス、ノ、コエキクラムカ、カタキクワキ  
秋野之草花我未鳴舌百鳥音聞濫香片聞吾

妹

詠露

アキハ、ギ、ニ、オケルシラツユアサナサナタマト、ソ、ミユル、オケルシラツユ  
冷茅子丹置白露朝朝珠斗曾見流置白露

取石長流本作取  
子製之先往和泉  
國之時路傍有池  
問之方人對曰登  
呂須池  
聖武紀行還至  
和泉國取石須  
宮  
常夏日本紀云  
陰神先唱曰云  
便握陽神之  
手遂為夫婦

戀而聞也當前人不知之  
前故先聞

萬葉集卷十

ユフタキノ アメフルコトニ  
暮立之雨落每一云打春日野之尾花之上乃

白露所念

アキハキノ エタモ トヲ、ニ ツユシモオキサムクモ トキハ ナリニ  
秋茅子之枝毛十尾丹露霜置寒毛時者成爾

家類可聞

シラツユト アキノハ キトハ コヒミタレワクコトカタキワカコノロカモ  
白露與秋茅子者戀亂別事難吾情可聞

ワカヤ トノヲ ハサオシナニオクツユニ テ フレワギモ コ チラミク  
吾屋戸之麻花押靡置露爾手觸吾妹兒落卷

毛將見

シラツユヲ トラハ ケヌヘシイ テヤ コ トモツユニ イソヒテ ハ キノ  
白露乎取者可消去來子等露爾爭而茅子之

崇神紀

後撰天智天皇御  
哥心出於此哥

遊將為

アキタ カルカリイホヲ ツクリワカヲレハ コロモテ サムシツユオキニ ケル  
秋田蒨借廬乎作吾居者衣手寒露置爾家留

コノコロノ アキカセサムレハ キノ ハナキラス シラツユオキニ ケラシモ  
日來之秋風寒茅子之花令散白露置爾來下

アキタ カルトマテ ウコクナリ シラツユハ オクホ タ ナシト ツケニ  
秋田蒨蒼手搖奈利白露者置穗田無跡告爾

來良思

一云告爾來良思毋

諫山

ハルハ モ エ ナツハ ミトリニ クレナサノ ニシキ ニ ミユル アキノヤマカ  
春者毛要夏者綠丹紅之綠色爾所見秋山可

昔  
契云女子孟借  
去廬戶前所世之  
冬滿余蓋古代  
之義我苗且忘容  
膝之室又今掃  
下三處許結繩  
謂之登天

風搖之

既川畢故穩甲

聞

詠黃葉

妻隱矢野神山露霜爾爾實比始散卷惜  
朝露爾染始秋山爾鐘禮莫零在渡金

右二首柿本朝臣入磨之詞集出

九月乃鐘禮乃雨丹沾通春日之山者色付丹

來

鴈鳴之寒朝開之露有之春日山乎令黃物者

妻隱冠屋三  
一三書是隱室  
者也  
契云矢野未知  
在何處類字  
云未考宗祇云  
在伊豫或云  
前

比日之曉露丹吾屋前之芽子乃下葉者色付

爾家里

鴈鳴者今者來鳴沼吾待之黃葉早繼待者辛

苦母

秋山乎謹人懸勿忘西其黃葉乃所思君

大坂乎吾越來者二上爾黃葉流志具禮零乍

秋去者置白露爾吾門乃淺茅何浦葉色付爾

家里

正山越中射  
水郡

勿懸言而苦我也

黃葉繼而黃葉也

末葉也

製考前後未  
山蓋在大和  
冬浦云又多筑  
前地名蓋筑前  
城山也平五表  
應離考

妹之袖卷來乃山之朝露爾仁寶布黃葉之散

卷惜裳

黃葉之丹穗日者繁然鞞妻梨木乎手折可佐

寒

露霜聞寒夕之秋風丹黃葉爾來毛妻梨之木

者

吾門之淺茅色就吉魚張能浪柴乃野之黃葉

散良新

岡

鴈之鳴乎聞鶴奈倍爾高松之野上之草曾色

付爾家留

吾背兒我白細衣往觸者應深毛黃變山可聞

秋風之日異吹者水莖能罔之木葉毛色付爾

家里

鴈鳴乃來鳴之共韓衣裁田之山者黃始有

鴈之鳴聲聞苗荷明日從者借香能山者黃始

南

買者重  
禮也寸  
無寸無  
禮也寸

落子大伴御  
上京之時  
我松原從見波

四具禮能雨無間之零者真木葉毛爭不勝而

色付爾家里

灼然四具禮乃雨者零勿國大城山者色付爾

家里 謂大城山者在筑前御笠郡也

風吹者黃葉散乍小雲吾松原清在莫國

物念隱座而今日見者春日山者色就爾家里

九月白露負而足日木乃山之將黃變見幕下

吉

月中桂也

妹許跡馬鞍置而射駒山擊越來者紅葉散筒

黃葉為時爾成良之月人楓枝乃色付見者

里異霜者置良之高松野山司之色付見者

秋風之日異吹者露重茅子之下葉者色付來

秋茅子乃下葉赤菴玉乃月之歷去者風疾鴨

真十鏡見名淵山者今日鴨白露置而黃葉將

散

吾屋戸之淺茅色付吉魚張之夏身之上爾四

大和南洲山

結紐而之解之  
故云和名秋  
紐比人切  
揚氏漢語抄云  
結而可解者也

具禮零疑

カカリカ子ノ、サムクナク、ヨリニツクキノ、ヲカノ、クスハ、ハ、イロツキニケリ  
鴈鳴之寒鳴從水莖之岡乃葛葉者色付爾來  
アキ、ハキ、ノ、ニタハ、ノ、モミチ、ハナニ、ツクトキスキユケハ、ノチコロ  
秋茅子之下葉乃黃葉於花繼時過去者後將

戀鴨

ア、ス、カ、カハモミチハナカルカツラキノヤマノ、コノハ、ハ、イミシ、チルラシ  
明日香河黃葉流葛木山之木葉者今之散疑  
イモカ、ロモトクト、ムスヒテ、タツタ、ヤマイマコ、ソ、モミチ、ハシヌ、タリ  
妹之紉解登結而立田山今許曾黃葉始而有

家禮

カリカ子ノ、サハキチシ、ヨリカスカ、ナルニ、カサノヤマハ、イロツキニケリ  
鴈鳴之喧之從春日有三笠山者色付丹家里

比者之五更露爾吾屋戸乃秋之茅子原色付

爾家里

ユフサレハ、カリノ、コエユクタツタ、ヤマシク、レ、ニ、キホロイロツキニ  
夕去者鴈之越往龍田山四具禮爾競色付爾

家里

サ、ヨ、フケテ、レ、ク、レ、ナ、フリソアキ、ハキ、ノ、モトハ、ノ、モミチ  
左夜深而四具禮勿零秋茅子之本葉之黃葉

落卷惜裳

フルサ、サ、ハ、ツ、モ、ミ、チ、ハ、ヲ、タ、ヲ、リ、モ、テ、ケ、フ、ソ、ワ、カ、ク、ル、ミ、ヌ  
古卿之始黃葉乎手折以而今日曾吾來不見

人之為



契云乃下蓋脫  
字者落二字顛  
一本無乃之二  
字及者字落  
下有之者二字

君之家乃之黃葉早者落四具禮乃雨爾所沾  
良之母  
一牟二遍不行秋山乎情爾不飽過之鶴鴨

詠水田  
足曳之山田佃子不秀友繩谷延與守登知金  
左小牡鹿之妻喚山之岳邊在早田者不茹霜

者難零  
我門爾禁田乎見者沙穗內之秋芽子為酢寸

所念鴨  
詠河  
暮不去河蝦鳴成三和河之清瀨音乎聞師吉  
毛

詠月

天海月船浮桂檝懸而榜所見月人壯子  
此夜等者沙夜深去良之鴈鳴乃所聞空從月  
立度

按此詩蓋在  
牛之可而誤  
月哥中宜列七  
夕哥中

天海月船浮桂檝懸而榜所見月人壯子  
此夜等者沙夜深去良之鴈鳴乃所聞空從月  
立度

萬葉卷十

四十一

吾背子之挿頭之茅子爾置露乎清見世跡月  
者照良思

無心秋月夜之物念跡寐不所宿照乍本名  
不念爾四具禮乃雨者零有跡天雲霽而月夜

清鳥

茅子之花開乃乎再入緒見代跡可聞月夜之

清戀益良國

白露乎玉作有九月在明之月夜雖見不飽可

聞  
新しき月とてやのハ松を馬とて月をいふ  
まはりの月とてやのハ松を馬とて月をいふ

詠風

戀乍裳稻葉搔別家居者乏不有秋之暮風  
茅子花咲有野邊日晚之乃鳴奈流共秋風吹  
秋山之木葉文未赤者今日吹風者霜毛置應

詠芳

高松之此峯迫爾笠立而盈盛有秋香乃吉者

芳賞意猶若春芳地等之芳

日當作且

長流云紅葉如  
芝之而道山中

詠雨

一日千重敷布我戀妹當為暮零禮見

降留之畧

右一首柿本朝臣入磨之歌集出

秋田菊客乃廬入爾四具禮零我袖沾千人無

二

玉手次不懸時無吾戀此具禮志者者沾乍毛

將行

黃葉乎令落四具禮能零苗爾夜副衣寒一之

苟且出居之處皆稱旅

上者字蓋零之誤

宿者

詠霜

天飛也鴈之翅乃覆羽之何處漏香霜之零異

喻群雁翔

牟

秋相聞

金山舌日下鳴鳥音聞何嘆

誰彼我莫問九月露沾乍君待吾

秋夜霧發渡夙夙夢見妹形矣

翅

台日者之那飛也

我待人故蒙露而立葉勿問阿誰

アキノスソフ ハナカスエノオヒナヒクコ、ロハイモニヨリニケルカモ

秋野尾花未生靡心妹依鴨

秋山霜零覆木葉落歲雖行我忘八

右柿本朝臣人麿之歌集出

寄水田

住吉之岸乎田爾墾蒔稻乃而及蒞不相公鴨

釵後玉纏田井爾及何時可妹乎不相見家戀

將居

秋田之穗上爾置白露之可消吾者所念鴨

新田園發

史記春申君傳力劍室以珠玉飾之

冬浦柳上可蓋刈之誤

得

秋田之穗向之所依片縁吾者物念都禮無物

乎

秋田叫借廬作五百入為而有藍君叫將見依

毛欲將

鶴鳴之所聞田井爾五百入為而吾客有跡於

妹告社

春霞多奈引田居爾廬付而秋田蒞左右令思

良久

聖壽任之誤

萬葉集

五十一

守部 蓋也  
名不知何所

橘乎守部乃五十戸之門田早稻蒔時過去不  
來跡爲等霜

寄露

秋茅子之開散野邊之暮露爾沾乍來益夜者

深去鞞

色付相秋之露霜莫零妹之手本乎不纏今夜

者

秋茅子之上爾置有白露之消鴨死猿戀爾不

有者

吾屋前秋茅子上置露市白霜吾戀目八面

秋穗乎之努爾押靡置露消鴨死益戀乍不有

者

露霜爾衣袖所沾而今谷毛妹許行名夜者雖

深

秋茅子之枝毛十尾爾置露之消毳死猿戀乍

不有者

萬葉集卷廿

五十一

秋芽子之上爾白露每置見管曾思努布君之

光儀乎

寄風

吾妹子者衣丹有南秋風之寒比來下著益乎  
泊瀨風如是吹三更者及何時衣片敷吾一將

宿

寄雨

秋芽子乎令落長雨之零比者一起居而戀夜

曾大寸

九月四具禮乃雨之山霧煙寸吾告曾誰乎見  
者將息

一云十月四具禮乃雨降

寄蟋蟀目錄

蟋蟀之待歡秋夜乎寐驗無枕與吾者

寄蝦

朝霞鹿火屋之下爾鳴蝦聲谷聞者吾將戀八

和名抄云唐韻  
燭音鬱俗語云  
烟氣也  
烟寸宜訓伊夫  
執燭

日本紀  
日本紀  
日本紀

以朝霞為量之  
考加之

方

寄鴈

イテ、イナハ アトフカリノ ナキヌヘニ ケフ ケフトイフニ  
出去者天飛鴈之可泣美且今日且今日云二  
トシソヘニケル  
年曾經去家類 言不果我念念故欲出住他然而汝如雁鳴慕我故猶與經年既經年紀

寄鹿

サヲシカノ アサフスヲ スノ クサワカニ カクロヒカ子 テヒト  
左小牡鹿之朝伏小野之草若美隱不得而於  
ニシラルナ  
人所知名 喻心裏念  
サヲシカノヲ フ、クサフシイチヒロクワカトハサレニ 不言也 ヒトノシ  
左小牡鹿之小野草伏灼然吾不問爾人乃知

良久

寄鶴

コノヨラノ アカツキクダチナクタクツノ オモヒハスキスコヒコソ マサレ  
今夜乃曉降鳴鶴之念不過戀許增益也 曉後也

寄草

三ノヘノヲ ハナカニシタノ オモヒクサイマサラナニノモノカ オモハム  
道邊之乎花我下之思草今更爾何物可將念 長心裏念入喻龍膽也或至秋

寄花

クサフカニ キリノ スイタクナクヤトニハ キ ミニキミハ イツカキ マサム  
草深三懸多鳴屋前茅子見公者何時來益牟  
アキツケハ ミクサノハナノア エヌ カニオモヘト エラシタ、ニ アハ  
秋就者水草花乃阿要奴釐思跡不知直爾不

也疑礼之誤

契魚草龍膽  
夏集秋の  
花者混尾花而味  
云也之語也

相在者

何為等加君乎將狀秋茅子乃其始花之歡寸

物乎

展轉戀者死友灼然色庭不出朝容貌之花

言出而云忌染朝貌乃穗庭開不出戀為鴨

鴈鳴之始音聞而開出有屋前之秋茅子見來

吾世古

左小牡鹿之入野乃為酢寸初尾花何時加妹

之將手枕

戀日之氣長有者三苑圃能辛藍花之色出爾

來

吾鄉爾今咲花乃女郎花不堪情尚戀二家里

茅子花咲有乎見者君不相真毛父二成來鴨

朝露爾咲酢左乾垂鴨頭草之日斜共可消所

念

長夜乎於君戀乍不生者開而落西花有益乎

言如尾花之系于何時持枕子

猶言即花咲澤尔生流花形見

初秀而美好者謂之初尾花

以言借

第三第七第十

娘部四歌

不生者或云不有者



契幸尔伊射也

ワキモ コニ アフサカヤモノ トリス、キホニハサキイテス コヒ

吾妹兒爾相坂山之皮為酢寸穗庭開不出戀

渡鴨 ワタルカモ 率爾今毛欲見秋茅子之四搓二將有妹之光儀

乎

秋茅子之花野乃為酢寸穗庭不出吾戀度隱

孀波母 ツマハモ

吾屋戸爾開秋茅子散過而實成及丹於君不

相鴨 又カモ

隱家不見也

至者水中往置名而渡曰

ワカヤトノハキサキニケリチラヌマニハヤキテミヘシ  
吾屋前之茅子開二家里不落間爾早來可見

平城里人

我魚顔也如狼花

石走間生有貌花乃花西有來在筒見者

藤原古郷之秋茅子者開而落去寸君待不得

而

秋茅子乎落過沼蛇手折持雖見不怜君西不

有者

朝開夕者消流鴨頭草可消戀毛吾者為鴨

アキツノノヲハナカリソヘアキハキノハナヲ  
サキヌトモシラスシアラハモタモアラムコノアキハキヲ  
イホ  
一ホ  
三セ

廬

笑友不知師有者默然將有此秋茅子乎令視

管本名

寄山

秋去者鴈飛越龍田山立而毛居而毛君乎思

曾念

寄黃葉

不產君或曰作  
不未座君

ワカヤトノクスハヒニケニイロツキヌキマサヌキミハナニコロ  
我屋戸之田葛葉日殊色付奴不座君者何情

曾毛

足引乃山佐奈葛黃變及妹爾不相哉吾戀將

居

黃葉之過不勝兒乎人妻跡見乍哉將有戀數

物乎

寄月

於君戀之奈要浦觸吾居者秋風吹而月斜烏

秋夜之月疑意君者雲隱須臾不見者幾許戀

敷

九月之在明能月夜有乍毛君之來座者吾將

戀八方

寄夜

忍咲八師不戀登為跡金風之寒吹夜者君乎

之曾念

惑者之痛情無跡將念秋之長夜乎寐師耳

秋夜乎長跡雖言積西戀盡者短有家里

寄衣

秋都葉爾爾寶敞流衣吾者不服於君奉者夜

毛著金

問答

旅尚襟解物乎事繁三九宿吾為長此夜

四具禮零曉月夜紉不解戀君跡居益物

於黃葉置白露之色葉二毛不出跡念者事之

繁家口

雨零者瀧都山川於石觸君之摧情者不持

右一首不類秋調而以和載之也

譬喻歌

祝部等之齋經社之黃葉毛標繩越而落云物

乎

旋頭歌

蟋蟀之吾床隔爾鳴乍本名起居管君爾戀爾

言思人切則踰  
柜也

毛詩十月蟋蟀  
入我床下

宿不勝爾

皮為酢寸穗庭開不出戀乎吾為玉蜻直一目

耳視之人故爾

冬雜歌

我袖爾電手走卷隱不消有妹為見

足曳之山鴨高卷向之木志乃子松二三雪落

來

卷向之檜原毛未雲居者子松之末由沫雪流

製白杜林木詳  
出  
...

足引山道不知白杜枝枝母等乎乎爾雪落者

或云枝毛多和多和

右柿本朝臣人磨之歌集出也但一首

或本云三方沙彌作

詠雪

奈良山乃峯尚霧合字倍志社前垣之下乃雪  
者不消家禮

殊落者袖副沾而可通將落雪之空爾消二管

殊落大雪也言  
殊於常

夜半寒三朝戸乎開出見者庭毛薄太良爾三

雪落有 一云庭裳保杼呂爾雪曾零而有

暮去者衣袖寒之高松之山木每雪曾零有

吾袖爾零鶴雪毛流去而妹之手本伊行觸糠

沫雪者今日者莫零白妙之袖纏將千人毛不

有惡

製三不有惡三字宣訓阿良奈久仁者文外漆之辭

甚多毛不零雪故言多毛天三空者隱相管

吾背子乎且今且今出見者沫雪零有庭毛保

トロニ  
杼呂爾

アヒヒキノヤミニ シロキハ ワカヤ トニ キノフノクレニフリシ ユキカモ  
足引山爾白者我屋戸爾昨日暮零之雪疑意

詠花

タカソノ、ウメノハナゾモヒサカタノ キヨキツキヨ ニ コ、ラ チリクル  
誰苑之梅花毛久堅之清月夜爾幾許散來

ウメノハナマツサクエタラタ フリテ ハ ットト ナ ツケテ ヨ ソヘチム  
梅花先開枝手折而者曩常名付而與副手六

香聞

タカソノ、ウメニ カ アリケム コ、タクモ サケル カモ ミテワカ  
誰苑之梅爾可有家武幾許毛開有可毛見我

オモフ マテニ  
欲左右手二

以艱情附者梅也

言梅枝冒雪而不能  
開章開雖然則  
應散依之則不  
開之如此亦可貴

キテミヘキ ヒトモ アラナクニ ワキヘ ナルウメノハナチリヌト モ ヨシ  
來可視人毛不有爾吾家有梅早花落十方吉  
ユキサムミ、サキニハサカテ ウメノハナヨニコノコロハ サテモ アルカ子  
雪寒三咲者不開梅花縱比來者然而毛有金

詠露

イモカタメホツエノウメツタ ヲルト ハ シツエノ ツユニ ヌレニケル  
為妹末枝梅乎手折登波下枝之露爾沾家類

オラント 冬滿梅波若依之誤早書相近又云恐衍字

カモ  
可聞

詠黃葉

ヤダノ スノ アサチ イロツクアラチ ヤミミ子ノ アハユキサムクフル  
八田乃野之淺蒨色付有乳山峯之沫雪寒零

ラミ  
良之

在越前敦賀郡  
在放天和殿

八田野神式三和  
名抄三夫和國下  
郡天甲トル是也  
藤神紀夫田皇女  
ト同皇サニ  
德紀八田ノ皇女  
ハ越前國敦賀郡  
三ノ石(愛媛國)

詠月

左夜深者出來年月乎高山之峯白雲將隱鴨

冬相聞

零雪虛空可消雖戀相依無月經在  
沫雪千里零敷戀為來食永我見悵

異或作里

右柿本朝臣人磨之歌集出

寄露

咲出照梅之下枝置露之可消於妹戀頃者

寄霜

甚毛夜深勿行道邊之湯小竹之於爾霜降夜

鳥

寄雪

小竹葉爾薄太禮零覆消名羽鴨將忘云者益

所念

霰落板敢風吹寒夜也旗野爾今夜吾獨寐牟  
吉名張乃野木爾零覆白雪乃市白霜將戀吾

知湯平也第  
十三

敢救之誤

製旗野天和歌  
又伊勢有波多  
横山

鴨

一眼見之人爾戀良久天霧之零來雪之可消  
所念

思出時者為便無豐國之木綿山雪之可消所

念

如夢君乎相見而天霧之落來雪之可消所念  
吾背子之言愛羨出去者裳引將知雪勿零  
梅花其跡毛不見所見零雪之市白兼名間使遣

契之定規良市規  
加布也

者 一云零雪爾間使遣者其將知名

天霧相零來雪之消友於君合常流經度

窺良布跡見山雪之灼然戀者妹名人將知可

聞

海小船泊瀬乃山爾落雪之消長戀師君之音

曾為流

和射美能嶺往過而零雪乃狀毛無跡白其兒

爾

言如雪之  
厭我亦當思汝  
也



冬清祚益社  
之誤蓋衍歟

寄花

ワカヤトニ ニ 廿キタル ガ ヌツキヨヨ ヨ ミヨナク ミ セム キ ミツ

吾屋戸爾開有梅乎月夜好美夕夕令見君乎

寄夜

足檜木乃山下風波雖不吹君無夕者豫寒毛

萬葉集卷第十

